

広報かわにし

発行所	川西町役場
発行者	川西町
(町長)	中村 吉
編集者	村委員 会
印刷所	日南風 社
印刷部	1部 5人
人口	の動き
—1月1日現在—	
男女計	6,994人
世帯数	1,416世帯
人口	7,169人
人口	4,163人
人口	2,763世帯

学校統合、開田、道路など

足なみそろえて町づくりへ

一九六一年は明けた。建設の意欲にあふれ、すでに基礎づくりを終えたわが町が、中村町長のえがく未来図に向かって足なみそろえて前進する年であるといえる。ことしもまた、町づくりのツチ音が高らかにひびくことであろう。町の行政はどう展開されていくだろうか。庁内をめぐってことしのヤマをつかんでみた。

(庶務) 町議会議員の任期が八月いっぱい終わる。選挙の執行も八月になる見込み。栄橋の架設工事は第三年度にはいった。(教育委員会) 不安定になっ

ている千手・上野中の統合を、何としても目的どおり実現したい、これがことしのヤマだともいえる。冬季分校については、地域的にみて通学可能な分校や、児童生徒数の少ない分校から逐次廃止の機運にもっていくようだ。一部に寄宿舎を作ることも考えている。

なお、社会教育主事の設置をはじめとして社会教育面の強化充実がはかられ、公民館が「やかた」を中心とした活動態勢にはいることはいままでのままだ。

(農業委員会) 町の農業振興策を重点的にとりあげる。現在、ほかの産業よりも低い農業所得は



町消防団の出発式は、ことしも六日に行なわれた。写真は伝統のハシゴ乗りである。手に汗にまみれるほどハラハラさせ、威勢のよい掛け声で数々の妙技を見せてくれた。(役場前にて……押木秀治撮影)

出ぞめ

このままでいくとますますひらきが大きくなる。このさい、国内で自給できるような体制をとるため、種豚を導入して優良種の普及増殖に努めるといふ。

得の増大をはかるというわけ。これからの農業経営は稲作一辺倒ではだめ、そこでまず農民の意見をきき、委員会を中心として地域別の振興策をたてることになった。

(農林) 松葉沢水系の開田四十ヘクタールをはじめ、集団養豚を主体とした十五ヘクタールの原野を畑地に転換して、農地の造成を促進する。また、約四千万円の損失をまねいた昨年七月災害の、町営復旧事業を年内に完成させる予定。このほか、豚などの中家畜を主体として畜産の振興をはかるため、種豚を導入して優良種の普及増殖に努めるといふ。

(土木) 五月には仙田橋が完成する。仙田・上野間の小山橋と松葉橋も、年内には永久橋にかけかえられる予定。このほか、国費改修で仙田線の一部を拡張し、単軌事業で大伏線の一部を改良し、上野以北を舗装する計画もあるようだ。現在、「隣接市と協力して無雪道路の実現に努めたい」とはいっているが、意外の大雪でその見通しも立っていない。

(社会) 季節保育所を充実し心配ごとの相談所を設置し、老人クラブの結成を促進し、子ども会を育成し、青少年の不良化防止に力を入れる。このほか、拠出制の国民年金が四月から全面的に施行されることになっている。

(国保衛生) 五割の一部負担はそのままで、入れ歯、給食、寝具の給付制限を撤廃したいとのこと。法改正により、健保被扶養者などの二重加入は三月いっばいで打ち切られるが、現在受診中の被保険者は、その資格を失っても継続給付していくことになる。

環境衛生の改善をはじめ、ガン

の検診、伝染病、寄生虫病の予防

カとハエの撲滅などに力を入れる小児マヒの予防注射には補助金を出すことになった。三十四年度の統計によると、町の受診件数は二万五千五百七十件治療のために十万余千余日をついだし、医療費は二千六百三十万八千円にのぼる。一日平均二百九十人の患者があるわけ、これが減少

川西の未来を夢に

庁舎屋上のターミナルから、いま、仙田行のヘリコプターがはなれようとしている。目の下には、舗装した広いまっすぐな道路がクモの鼻のように張りめぐらされていた。ビルの窓や住宅に日の丸がはためき、初春を祝う人たちがきれいに着かざって行きかう。五分ごとに発車する町内バスが、すべるように消えて行った。無雪道路になったのは原子力を利用しての第二次産業革命がなされたあと、あの巨大なエネルギーで、全町に消費車が動くようになってからだった。ここに住む人は雪道の不便を知らない。郷土史料館には、文化財調査で発見したというソリがあ

町づくり

いた。川西研究所の無雪班に、が米、タバコ、こんにゃく、養蚕ラク農、畜産が盛んだ。農家戸数は全世帯の五十パーセント、そのほとんどが共同経営で兼業が大半を占める。農業人口が減りはじめたのは栄橋がかけられたころ、あれを契機に大工場が誘致されたから。暮らしは豊かでみんながあわせ、ここにはインフレもデフレもない。老人たちが、平均寿命百八才の余生を楽しんでいた。鉄筋建ての小学校が二つ、中高一、高校一つがある。分校は一つもなかった。スクールバスをフルに使うと、三十分以内に全生徒が集まるといふ。どの学校にも教材が完備し、すぐれた教員が配置され、よりよい教育がなされていた。社会教育課をのぞいてみた。近代的な公民館が五十五もあり、全館に専任主事が配置されていた。川西が現在のように発展してきたのは、いま住む人びとが先人の遺志を受け継ぎ、心を一つにして町づくりに協力したからといわれる。とくに、十九世紀の後半に行なわれた社会教育が、現在の基礎をつくったということであった。「えらいことを書いたな」と笑われるかもしれない。筆者の初夢である。決して白日夢ではない。みなさんどんな夢を見られたであろうか。未来はわからないとしても、夢を持つことはできる。この夢を実現させる何か、みんなの夢を今後にいせつにしよう。

に全力をあげるのとことである。(税務) 町村合併促進法の特例によって、多額の地方交付税をもらえる最後の年である。来年度から、約一千五百万円の税収が減ることになり、頭の痛いようだ。国税減税(所得税が大幅に)のあたりはほとんどないくらい、大規模固定資産税(国鉄)は、償却のためことしも二百万ほど減額される。

中村町長の新春放談

教育と産業がスローガン

この任期に最後の花を

タウンマスター中村杜吉氏、一見して温和なこの人には、いわば町づくりのオニでもいうべきピリッとした何かがある。...

ヒゲを落として

戦後の人に

(金子) おめでとございます (中村町長) こしもよろしく (金子) 頭髪がよく合っているから若々しい感じですね。...



(写真) 中村町長、左は筆者町長室で 押木秀治撮影

されましたか。

(中村町長) 元旦に年始まわりして、あとはできるだけからだを休めた。何せヒマがなくてね。...

(中村町長) ゆうべ整理してみたらざっと六百枚、出したのは二百枚だから三倍もった。...

(金子) 酒はどれくらい飲みますか。カケ値のないところ。...

(中村町長) まあ、三合から五合くらいがいいとこだね。若いときの半分しか飲めない。...

(金子) めいていのピークは (中村町長) 一べんに飲むのと、ゆっくの飲むのとはちがう。...

六合になるともうわからなくなるね。飲みたくないとき、仕事でどうしても飲まなければならぬことがある。...

(金子) 「これはからだに悪い」と思っても、やはりムリをされる場合が多いでしょうね。...

(中村町長) 気をつけてはいませんがね、ああ。お陰で、ふつかな酔いなんかもう二十年もしてない。...

(金子) かつて、川西の虎といわれた時代があるそうですが、

(中村町長) あのところは、大きい声でガナルのと、虎ヒゲがじまんであったから、だが、今はこうしてヒゲを落とし、頭の毛を伸ばして戦後派になった。...

(金子) 政治家として、これまでずいぶん町のためにつくってこられたわけですが、忘れられない思い出を一つだけ。...

(中村町長) 町長になったばかりのころ、米と塩がなくてどうしようもなかったときのことだね。...

(金子) 日常の生活について何か。...

(中村町長) なにせ昼夜兼行の仕事がきつくて、だから、ヒマさえあればからだを休めている。...

もう出馬は

しなすつもり

(金子) 町長というお仕事には、いろいろな人の知らない苦労があるでしょう。...

(中村町長) わたしは非常に涙もろい。これが、町長として苦労の種になっている。...

「あの職員はやめさせてくれ」という声が多かったようなとき、そのつもりで本人の家庭を訪問するのだが、ついに情に負けて。...

もう一つ、酒に酔わないように努力することだね。わたしには、昔から狭き場所があった。...

(中村町長) 次期にも出馬なさいますか。まだ先の話ですけども。...

(金子) もう出ません。(中村町長) もう出ません。(金子) そうおっしゃらずに

(中村町長) しかしねえ、この次は年からいっても、おそろくからだかたないと思うんだ。川西の町長はからだかたじょうぶなければとまらない。...

(金子) 激務ですからねえ。(中村町長) 津南町には、助役級の職員が六人もいる。...

町長が仕事に直接口を入れない方がいいようになっていってホネが折れない。...

官級に比べて兵隊が多いからね。(金子) 機構改革をやるといわれますが。...

(中村町長) 四課にし、その中に係を置く案を議会にはかった。...

課長はわたしの入選でいくが、係長は職員と相談してきめたい。(金子) 改革のねらいは。...

(中村町長) 仕事の繁閑を調整して事務を効率化し、住民サービスを向上させることが目的だ。...

(金子) 役場職員が多すぎるという声もあるのですが。(中村町長) それが悩みの種だ。...

事務量は年々ふえてくるし、だが、仕事が少ないのに職員だけが多い、というのと、手不足で仕事ができないから職員をふやすというところは根本的にちがうんだ。...

(金子) 町長案を審議した町議会が、①支所の廃止 ②収入役を現職の吏員から選ぶこと ③老令職員の勧奨退職、の三項目を申し入れたそうですが。...

(中村町長) 支所の廃止は早晩実現しなければならぬ。収入

役は現職から選ぶ。勧奨退職はいまのところ考えていない。というのは、経験を重ねて町のために長く働いてもらいたいからだ。...

(金子) 職員の給与をどう考えていますか。たとえば、人事院の勧告どおりに上げてやるのか。(中村町長) そうムヤミに上げられない。...

中だるみは正や、一率に十二・四パーセントの昇給などというのは、正しい俸給のありかたではないと思う。...

ちがいが増分の金を配分してくれたら、個人の働きを見て責任と能力によって上げるのだ。...

へんをよよく考えて働いてほしい。みんなが希望をもって、町のために長く勤めてもらいたい。(金子) 大きな事業は

ことし中に

(金子) 三十七年度から、交付税が大幅に減額されるわけですが、財政的にどうないますか。(中村町長) 予算を圧縮するよりしかたがないね。...

川西の財政は、隣接の松代や高柳町の三倍くらいになっている。それだけぐまれているんだ。...

だから、金のかかる大きな事業は三十七年度までにやらなければ、そう思う。計画をすすめてきたわけだ。(金子) ここで、大きな立場から町の将来について。(中村町長) 教育や文化の施設を充実すること、産業を育成し発展させていくことだね。...

わたしの任期中はこれを基本にする。(金子) 将来の学校統合をどう考えますか。(中村町長) それは考えていない。...

が、分校や雪原を整理してそれから本校の統合にはいるべきだと思っね。...

じゃ、なぜ上野と千手を、というかもしれないが、あれは、三十九年度までに統合しないと助成金がもらえないんだ。(金子) 昨春、「公民館を建てる」と述べられましたが。(中村町長) 統合して千手

がういたら、それを改造して公民館に転用するつもりだ。現在の四教室はとりこわす。...

定時制高校や保育園にも使いたいと思っっている。将来に悔ない

町をつくる

(金子) 町の青少年をどうお考えですか。(中村町長) 定時制教育の振興と、青年学校の開設に力を入れる。...

青年団の組織づくりもできたよ。今後に期待するね。(金子) ここのしプランは。(中村町長) 十日町市と密接に協力して、将来に悔のない町をつくる。...

千手と上野中を基本的に統合し、仙田橋と栄橋を早期に完成させ、ブルドーザーを駆使して、

開田開畑に力を入れる。上野、橋方面の市街地の舗装と、仙田、小国間の道路を国費で改修して、

まちづくりもした。たは、ここに、こんななどの副業にも助成したい。...

まあ、こんなところかな。(金子) ありがとございます。おききしたいことはたくさんあるのですがこのへんで...

町議会報告 ①

残り少ない追加財源

災害関係の減免も可決

本年度第三回目の追加更正予算を中心議題とした第十回町議会定例会は、十二月十二日および十三日の二日間にわたって開かれた。今回議決された追加予算は、土木関係の災害復旧費や十一月行なわれた衆議院選挙費その他総額三百三十八万八千五百円にのぼるもので、本年度分見込み財源の大半を計上し、今後大幅の追加は困難となった。

追加予算以外には、小児マヒの予防注射に伴う手数料条例の一部改正、七月災害関係の固定資産税の減免等が審議可決されたほか、高橋信吾議員の辞任によって欠員となっていた出納臨時検査立会議員の互選を行ない、高橋惣八郎氏を選出した。その他、請願については継続審査分三件についての委員会報告、並びに新規六件が上程され、うち五件が継続審査としてそれぞれ所管の委員会に付託された。

追加総額は三百四十万

不足額は予備費を充用

今回の追加更正予算は、土木費その他の事業費を主体として、これに人件費、管理費、および選挙費その他の事務費が加わったもので、才出の総額は三百三十八万八千五百円となった。これに対して財源の才入は、地方交付税の未計上分百六十二万円をはじめ、事業費の地元負担金、国庫支出金等を含めて二百二十一万五千二百九十円でその間百万以上の不足額を生じた。この不足額は、無投票となった町長並びに農委選挙費から二十七万、予備費から約八十万、その他不妻額九万余りを充用あるいは更正して収支のバランスをとったもので、すでに予備費の残はわずか三十五万となり、普通地方交付税

繕費、女子職員制服助成等である消防費二十万三千円。岩瀬防火水槽並びに水路工事費十六万三千円のほか、防火宣伝演習助成四万円がある。

土木費百十五万八千円。今回の追加の中心である土木費は追加総額の半ばを占めているが、その中で七月災害の町道関係復旧は主として橋梁工事等、これが八十八万五千円と、今回の追加の最も大きいものである。その他、仁田地内軌道敷地埋め立て、三領橋補修、木落砂防工事等の道路改良工事費十二万七千円、水防資材九万八千円、仙田橋架け換え関係四万七千円等がある。

教育費四十一万三千円。冬期分校の臨時教員給与九万円を含む教育委員会費が十二万円。小脇分校のピアノ購入費十一万、上野小学校図書室その他の備品七万等を含む小中学校費は、上野小学校屋体基礎工事費十のうち約九万四千円の更正減と差し引きして十九万三千円。ほかに青年団に対する助

小児マヒの接種は百円

手数料条例の一部改正

小児マヒ(急性灰白髄炎)が昨年度から指定伝染病となったが、これまで希望者に対してだけ行なってきた予防接種を、最近の集団発生等にかんがみて厚生省から緊急措置要項が公布され、該当者(昭和三十四年七月一日から三十五年六月三十日まで)に生まれたもの全部に実施することとなった。ところが、この接種はワクチンが

成十万円が社会教育費に追加計上された。保健衛生費二十万六千円。小児マヒが指定伝染病となり、その予防接種が全該当者に対して義務的に行なわれることとなったので、その経費十七万八千円、および水道管理の経費二万八千円である。選挙費三万一千円の減。これはいずれも無投票となった町長選挙費から十二万、農委選挙費から十五万一千円、計二十七万一千円を更正減額し、そのうち二十四万を衆議院選挙費に充当して差し引き三万一千円の減となったもの。諸支出金十六万八千円は、前議会で成立した町営災害復旧特別会計へ繰り出したもの。

も見込み額の全部を出しつくしたので、あとは当初予算に百五十万計上してある特別交付税がどれだけ上まわって交付されるか、ということと、国鉄から買い取った軌道敷地の払い下げ代金などの程度見込まれるか、という点にかかっている状態で、ことしの財政も前途必ずしも楽観を許さない。

非常に高価(一回四百円)のためその手数料には段階を設けて、それぞれ国庫補助が交付される。しかし町としてはこれを一律に最高百円として不足分は町費から支出しようというもので、その手数料を定めたのが今回の改正である。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

たかき—御円満に

Table with columns for names and locations. Includes entries like 戸籍の窓から, うぶ声—御すこやかに, たかき—御円満に, and 昇天—御めい福を祈る.

町議会報告 ②

収入役は庁内から

大詰めにきた機構改革

三十五年度当初からの懸案であった役場事務機構の改革問題は、年明けとともにいよいよ大詰めに近づいた。

すなわち、さきに九月二十七日第八回臨時会で、当時収入役であった押木利成氏を助役に選任し、同時に、収入役を廃してその事務は当分助役が兼掌することとなったが、その際議会としては、これはあくまでもむを得ない暫定措置であるから、すみやかに専任の収入役を任命すべきである、この要望を付して承認したことは既報のとおりである。

ところが、その後押木助役が病気のため入院し、助役・収入役の職務について空白が生ずるという事態が起きたため、専任収入役の設置はいっそう焦眉の急を要する状況となった。このため中村町長は、十一月十一日、議会に対して次のとおり二項目の諮問を行なった。

- ① 収入役を現役職員中より選任することの可否
- ② 役場事務機構の改革については、この際役場機構の改革については、現在の十三係を四課に統合する町長試案が参考として提示された。

支所は速かに廃止

議会ではこの諮問について十二

月十三日定例会閉会後の全員協議会で検討した結果、次のような答申を町長に提出したのである。

川西町の収入役並びに役場機構改革に関する諮問に対し次のとおり答申する。

- 一、収入役選任について 現役職員中にその適任者があると認められるので、収入役は現役職員中より選任してさしつかえないものと認められる。
- 二、役場事務機構について 一、支所は速かに廃止すること。ただし、仙田支所は規模を縮小して出張所とする。橋・上野は連絡できる事務員・保健婦等最少限度のサービス機関を残すこと。
- 二、老令職員に対する勸奨退職の制度を設けられたい。
- 三、その他の事務機構については十二月二十四日に予定される議会において協議したいので、それまでに前二項について措置されたい。

勸奨退職はしない

この答申に対して、二十四日の全員協議会で中村町長が明らかにした見解は次のとおりであった。一、収入役の選任について 役場職員中に適任者がいるという点については答申と同意見

である。よって、事務機構の改革とも関連して一月中に選任するよう善処したい。

二、役場事務機構について 一、支所の廃止について 答申のように支所は原則として廃止する。すなわち仙田支所は出張所として戸籍を本庁へ移し、保健婦と社会教育・公民館活動のできる職員を残す。上野・橋は答申の線に添って実質的には支所はなくなり、単なる連絡所となる。

二、老令職員の勸奨退職は考えていない。勸奨退職は合併直後の特殊事情下における臨時的措置であって、通常の状態のもとで一般の制度として実施すべきものではないと考える。町職員にはスト権がない反面、定年制もない。したがって、定年制に準ずる勸奨退職の制度を条例として発案する意志はない。

ただし、人事については収入役選任も含めて必ずしも現在の序列に拘泥しない。適材適所でゆから旧三役でも課長とならない場合もあり得るが、いずれのポストについてもその分に就いて忠実に勤めてもらわねばならぬ。

以上の経過によっても明らかのように、機構改革についての焦点は結局三つの支所をどうするかという点に集約される。この点についてはすでに十日町市や津南町においても、全面的に支所の縮小ないしは廃止の措置をとっており中村町長も、これを英断だとして

町の掲示板

いる。したがって川西町としても早晩直面しなければならぬ問題なのであるが、断行についてはやはり相当の決意を要する面もありこの協議会においては、支所問題について町長が議会から終始激励されるという形で幕を閉じた。

- 十五日午前九時から、千手中学校で町民ろう球大会をひらく。
- 十七・八日は第一回町議会。
- 昭和三十四年度の決算が上程され中村町長から新年度の予算編成について所信が述べられる。
- 二十二日午前十時から町民娯楽大会。囲碁・将棋・カルタを役場で、マージャンを中央公民館で行なう。民踊大会は夜七時から役場で、いずれも公民館の主催。
- このしの成人式は五月一日に千手小学校で行なう。該当者は約三百名、四月中に健康診断を実施し、当日は健康手帳を交付する。

嘱託員さまる...

ことしの嘱託員が次のとおり(千手・橋の大半と上野の一部)きまった。町内や部落の長として一カ年間、多難な町政の執行に協力してくれるわけである。残りの地域も三月までにさまる。

- 【千手】 ● 中島町中島重成 ● 山野田高井寅吉 ● 発電所通相崎正平 ● 永久公舎西齊藤喜一 ● 永久公舎東西方敏男 ● 下平田中正雄 ● 四郎兼高橋軍治 ● 東善寺平野梅作 ● 上町丸山英郎 ● 中央町小野塚政市 ● 田中高橋

庁内人事

- 与市 ● 神社町小林浩康 ● 学校町星名庄蔵 ● 中屋敷小林英策 ● 寺尾清水善平 ● 木島大井元太郎 ● 木島公舎一未定一 ● 沖立星名善治郎 ● 伊友村山熊治 ● 高原田丸山恒正 ● 坪山引間徳太郎 ● 霜条蔵品茂雄 ● 鶴吉渡辺常治 ● 平見今藤留平
- 【上野】 ● 三領高橋一雄 ● 小根岸小海喜三郎
- 【橋】 ● 木落田口幸太郎 ● 寺ヶ崎高津徳治 ● 塩辛一未定一 ● 仁田和田光興 ● 野口五十嵐鉄治 ● 原田根津玄之介 ● 根深丸山吉太郎 ● 下原須藤寛蔵
- 上村カウ(税務)さんと上村啓子(教務)さんが、十二月十九日かきりで退職した。カウさんは二十三年六月に、啓子さんは二十八年六月にそれぞれ上野村役場へ退職、合併後も本庁に勤務して町のためよく働いてくれた。事務に精通したふたりを失ったことは惜しい。どうぞおしあわせに。
- 高橋一(中屋敷)氏と、大海基二(霜条)氏が、一月一日付で臨時技術職員(ブルドーザーの運転士)に採用された。農林係りに所属して町の開発にあたる。
- 学校町 高崎 正風 ● お飾りや厨に据わる大蔵 下原 丸山 仁子 ● 誤字脱字あるもなつかし初便り 愛知果 金子 鉄平 ● 熔接の火花鋭し事始め



金山柏樹選

霜条 大海 白濁
いささかの白髪もたのし初鏡
新町 若山 恭康
わらを打つ首も始まる七日かな
越ヶ沢 小川ソカ子
初日記こまこまと書き始めけり
越ヶ沢 小川 辰治
△を焼く煙まごつて柿冬木
小白倉 江口 凡石
勤けは日々吉日や初こよみ
小白倉 田中 緑風
書き始め妻と二人の農日誌
室島 宮 川
書き初めの窓の外なる雀たち
上野 根津 一耕
新年を迎えて嬉し米寿かな
●「新年雑詠」という題だったので、それ以外の句はいただきませんでした。添削のあとをよく味わってみてください。(相樹)

★ ★ ★
●あけましておめでとうございませう。しっかりと、町づくりに手をつないで生きましよう。みなさまのご多幸をお祈りいたします。
●中村町長の新春放談、年のはじめで多忙の中を、本紙のためとくにお話しくださいませう。
●新しく嘱託員になられたみなさま、ほんとにごくろうさまでございませう。本紙の配布をよろしくお願いたします。

●「無火災の、町にするんだ」としこぞ。こんな標語がありましたね。火の用心、火の用心。
●しるかねの雪をふむと新しい希望がわきます。社会教育には今が好期、講座も開設されました。じっくりとりこんでください。